令和3年度　全国学力･学習状況調査　瀬谷中学校の結果と分析

全国学力･学習状況調査は、「全国義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」という目的で、令和3年5月 27 日、小学校第6学年の全児童及び中学校第3学年の全生徒を対象にして実施されました。

調査内容は、（1）教科に関する調査（国語･数学）、（2）質問紙調査（生活や学習習慣について、教科学習について、新型コロナウィルス感染症の影響について）です。なお、調査結果につきましては、測定できるのが学力の特定の一部分であること･学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえて捉える必要があります。十分ご理解の上、受け止めていただければと存じます。

1. 学力向上の取組と教科に関する調査結果の概要と改善のための手立て

＜教科別平均正答率＞

	国　語（％）	数　学（％）
瀬谷中学校	60	51
神奈川県	65	58
全　　国	65	57

※県･全国の値は、公立学校の平均正答率です。

＜全体を通して＞

■　教科学習においては「興味･関心」の項目で県や全国の平均に近く、特に国語への関心は非常に高いことが見てとれる。その「興味･関心」をいかに学力として定着させていくかが、今後の課題と考えられる。また、本校では「自分の意見を書く、話す」などの表現活動を苦手と感じている生徒が多いことが分かった。

■　基本的な学力は、過去の調査結果と比較すると向上しているが、依然として県や全国に比べて開きがある。特に数学においては、学力の定着に向け、引き続き授業改善など様々な取組を進めていく必要がある。

＜国　語＞

「書くこと」に関する設問について、全国の平均正答率を大きく下回っている。「意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く」、「事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く」を無解答とした生徒が、全国平均を大きく上回っている。文章を「書くこと」に苦手意識をもつ生徒が多くいることの原因に、伝えたい事柄が相手に効果的伝わるように、文章の構成の工夫を考えて書く経験が少ないことが考えられる。社会生活に結び付くような学習活動を設定する中で、読み手に分かりやすく伝わるよう表現を整えて書くことを指導していきたい。

＜数　学＞

全般的に全国の平均正答率を下回っている。本校の傾向として「無答」が多く、数学的なデータの傾向を説明したり、図形の性質を数学的に表現したりする設問に特に課題がみられた。学んだことや身に付けた知識を説明したり表現したりする場面を授業の中に設定する一方で、考える力の基礎･基本となる知識･技能の定着にも力を入れていきたい。

2. 質問紙調査の結果の概要と改善のための手立て

＜全体を通して＞

■　「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒が、県や全国の平均を上回った。また、「人の役に立ちたい」や、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対して前向きな回答が多く、県や全国の平均を上回った。

■ 「起床時間」や「学習習慣」など、規則的な生活を送ることに課題がある生徒が、県や全国に比べて多い。

■ 「新型コロナウイルス感染症の影響で休校していた期間中の学習」に不安を感じている生徒が、県や全国の平均を上回っていた。休校や分散登校明けは学習相談などの回数や時間を例年より増やすなどの対策を行ってきた。今後も生徒の学習の不安の解消に向けた取組を継続したい。

＜学　　習＞

■ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した生徒の割合が、県や全国に比べてわずかに低い。ICT 機器等を活用しながら、キャリア学習等の場面においても、課題の解決に向けて調べたり、発表したりする場面を設定していきたい。

■ 生徒間で話し合う活動で、「友達の話や意見を最後まで聞くことができている」割合は、県や全国の平均とほぼ同じだが、「自分の考えを伝える」ことは、全国・県の平均と比べてやや低い。道徳の授業でも、「自分の考えを深めたり、広げたりする」、「学級やグループで話し合う活動に取り組んでいる」割合は、県や全国に比べ、低い結果が出ている。コロナ禍においても、ICTを活用しながら、授業の中で話し合う活動に取り組めるようにしたい。

■ 「コンピュータなどの ICT 機器をどの程度利用しましたか」の設問では、「月１回以上」が43．１％で最も多く、全国平均を約10ポイント上回った。一方で、「コンピュータなどの ICT 機器を、ほかの生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していましたか」の設問では、「月１回未満」が70．３％と、全国平均と比較して約34ポイント多かった。今後、一人一台 GIGA 端末を用いて、思考ツールにまとめたり、学習を振り返ったりする活動に取り組ませていきたい。

■ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」生徒の割合が、全国値よりやや低く、コロナ禍でグループ学習が制限され、自分の考えを発表する機会が減少した影響がみられた。

■ 「読書を全くしない」が約 20％と、全国と比べても倍近くの生徒が全く読書をしていないことが分かった。塾や習い事、スマートフォン利用等の影響があると考えられる。図書委員会の活動を通して、生徒の学校図書館の利用を促したり、教科での学校図書館利活用の機会を増やしたりしていきたい。

■ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）」の回答を見ると、「あまりしていない」、「全くしていない」の生徒の割合の合計が全国値より高い。教科の授業や学級指導の中で、定期試験前の学習計画の立て方について、より一層丁寧に指導していきたい。

＜生　　活＞

■ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という設問に、「当てはまる」と回答した割合が、県や全国の平均を上回った。今後も人権教育を通して生徒の規範意識を高めていきたい。

■ 「自分には良いところがある。」という設問で、県や全国の平均を下回っている。学習、委員会活動、部活動、ボランティア活動など、生徒の活躍の場面を可能な限り設定し、自己肯定感を高める活動を増やしていきたい。

＜保健安全＞

■ 「毎日の朝食」、「同じ時刻の入眠と起床」が「できている」と答えている生徒が全国の平均同様多い。今後も、基本的な生活習慣の定着のため、家庭と連携した指導を継続していきたい。

■ 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，規則正しい生活を送っていましたか」という設問に対して、「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」の割合が、県や全国の平均を下回っている。昨年度の休校や本年度の分散登校など、子どもたちの生活環境が目まぐるしく変化していく中で、規則的な生活を送ることの大切さを考えさせる場面の設定が必要である。